

報道関係者各位

東京大学大学院学際情報学府
東京大学大学院情報学環コンテンツ創造科学産学連携教育プログラム
情報学環長 吉見 俊哉
担当教授 荒川 忠一

第8回制作展 開催のご案内

「iii Exhibition 8」

このたび、東京大学大学院学際情報学府、および東京大学大学院情報学環コンテンツ創造科学産学連携教育プログラムでは、2007年12月7日（金）から13日（木）まで、東京大学本郷キャンパスにて、学生によるメディアアートの制作展【iii Exhibition 8】を開催いたします。

8回目を迎える今回は、文系、理系、専門分野を問わず多様なバックグラウンドを持つ学生が作品制作や企画運営に関わり、ますます活気あふれる展示になっております。新しいテクノロジーを用いた実験的な作品から日常に新しい視点をもたらす作品まで、様々な技術とアイデアの結晶が皆さんをメディアアートの世界へと誘います。

この時期、ぜひ制作展【iii Exhibition 8】へお気軽にお立ち寄りください。

【展示会期】 2007年12月7日（金）～13日（木）11:30～19:00（最終日16:00まで）

※6日(木)18:00からオープニング・レセプションを行います。

【会場】 東京大学 本郷キャンパス

工学部2号館（2階展示室・2階中庭・9階92B-1教室）

【入場】 入場無料（入退場自由）

【最寄り駅】

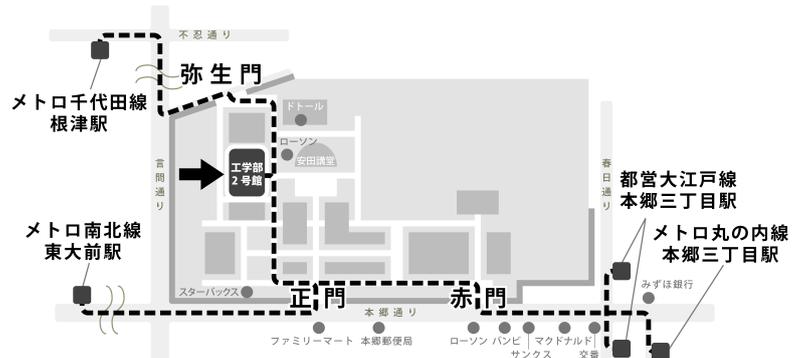
地下鉄メトロ丸ノ内線：本郷三丁目

南北線：東大前

都営大江戸線：本郷三丁目

【アクセスマップ】

<http://i3e.iii.u-tokyo.ac.jp/info.html>



① 《オープングレセプション》 12月6日（木） 18:00~19:00

開会に先立ち、担当教員の荒川忠一教授と全作家が会場を回りながら、報道機関と関係者を対象に、作品について1点ずつご紹介をさせていただきます。会場にて、各種説明資料と9階の会場にて軽食もご用意しております。

*当日18:00までに、2階展示室受付（松本楼横）へお越しください。

② 《ダンスパフォーマンス》 12月12日（水） 18:30 予定

実験的な企画として、特別出展作品とダンスのコラボレーションを予定しています。メディアアートのまた違った側面をご覧ください。実施有無について事前にWebをご確認をお願いします。

会場：工学部2号館中庭

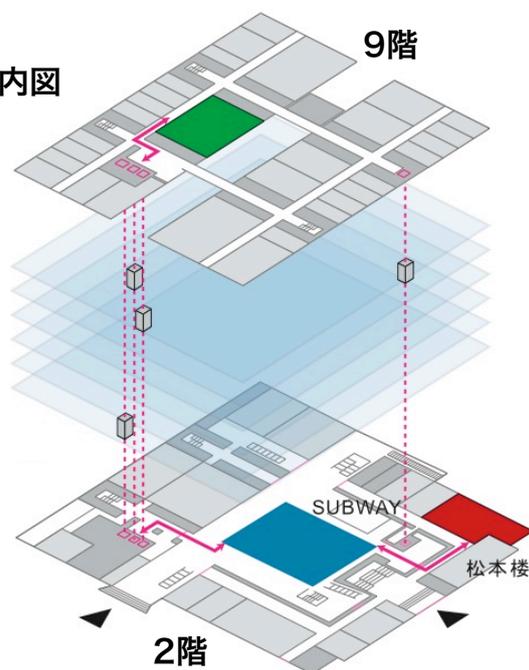
時間：15分（作品とダンスの説明+ダンス）

出演ダンサー：滝野原南生（東大OG・現在ダンサーとしても活動中）

■東京大学学内案内図



■工学部2号館館内図



【本件についてのご質問・お問い合わせ先】

制作展「iii Exhibition 8」

電話窓口 03-5841-6423（電話窓口担当者：荒川研究室 鈴木莉紗）

メール窓口 E-mail i3e@iii.u-tokyo.ac.jp（広報担当者：岩淵正樹）

WebSiteURL <http://i3e.iii.u-tokyo.ac.jp/>（ブログ更新中）

【担当教員ごあいさつ：荒川忠一（東京大学大学院工学系研究科 機械工学専攻教授／制作展担当教員）】

2004年夏より始まった東京大学大学院学際情報学府・東京大学大学院情報学環コンテンツ創造科学産学連携教育プログラム制作展"iii Exhibition"も、今回で第8回目を迎えようとしています。この制作展は大学院学際情報学府の講義の一環として始まり、学生が自らの手で科学技術の中に芸術的要素を織り交ぜ表現し発信するというコンセプトのもとに開催しております。

今日、大学院で研究されているような新しい技術は日進月歩である反面、開発した技術・メディアが一般の方の目に触れる機会はあまり多くありません。制作展は、本学内で得られた研究成果を、より多くの人に発信していくという目的で行なわれており、鑑賞者の方々自ら体験し楽しんでいただけるよう見せ方にも工夫を凝らしています。学生たちにとっては、研究で見いだした技術的な面白さを、芸術表現と融合することで、アートとして再構築するための新しい表現の場にもなっています。

また、個々に作品を制作するだけでなく会場設計から広報活動まで全ての企画・運営を学生たちが行っています。

今回の制作展は学環らしく文系・理系の学生、加えてコンテンツ創造科学産学連携教育プログラムにより他研究科からも様々なバックグラウンドを持つ学生が関わっております。多様な学生が集まり議論や試行錯誤を繰り返すことで、どなたにも楽しんでいただけるような展示会を目指しております。

作品の見せ方や実験的な表現手法など、お見苦しい点もあるとは思いますが、制作展を通して、作品を"魅せる"ことの重要性、その方法を少しでも学生たちが学ぶことが出来ればと考えております。ひとつひとつの作品をゆっくりとご鑑賞頂ければ幸いです。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。

【夢を創る：堀紫（東京大学大学院学際情報学府 馬場研究室／iii Exhibition 8ディレクター）】

この"iii Exhibition 8"を通して私たちが制作・展示するものは、ひとことではいうならばメディアアートです。「新たな技術的発明によって生み出される芸術」を意味するこの言葉がまだ多くの人にとってなじみがない一因は、本来なら密接に関係しているはずの「研究と社会」との隔たりゆえかもしれません。本制作展のために多くの議論を重ねるなかで、私たちは日頃行なっている研究の意義を幾度も考えることになりました。

前回の制作展"iii Exhibition 7"では、大学というある種閉じられた世界の中で進行している、「スーパーマニアク」とでも言うべき専門化・細分化された領域での成果の一端を、専門分野の垣根を越えて結びつけ、専門家のためだけではなく一般の方々に少しでも知ってもらえたら、という願いを込め、専門を超越する「ハイパーマニアク」という概念をテーマに掲げました。その体験を踏まえ、今回、知ってもらえるだけではなく、作家それぞれの研究と想像力に触れることで、「見に来てくれた人が、少しでも来た価値があったと思える展示」を目指しています。

近年“学際的な”発想、教育が必要だという認識が多くの教育機関でうまれています。そのような流れの中で、私たちは、様々な発想の持ち主が一同に会し、共に何かを作り上げるといった共通の目的や動機がなければ、真に学際的な交流は生まれないと考え、この制作展を通して試行錯誤を続けています。

未熟な点は多々あると思われそうですが、私たちの挑戦的一幕をお楽しみいただけますよう、皆様のお越しを心よりお待ちしております。



【作品介绍】 (14作品)



IRVIS■石川貴彦

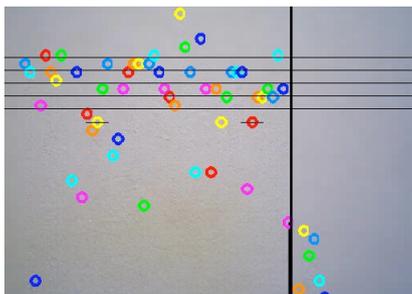
光は、精確に反射し、硬く輝く。普段は目に見えない光の経路を、ガラスのように表現します。ボード上のオブジェクトを動かすと、架空の光がオブジェクトに反射し、鮮やかなパターンが現われます。純粋な光の美しさを体験して下さい。

2007年 東京大学工学部計数工学科卒業

2007年- 東京大学大学院情報理工学系研究科システム情報学専攻 第6研究室所属

顕微鏡インタフェースなどの光学に関連した研究の傍ら、光を用いた芸術表現についての研究を行っている。

Vo-oV■伊藤あをい



音声の情報から音を出すことで新しいコミュニケーションを目指します。音声の情報を音符として表すことで、対話的に音楽を作ります。二人いれば、それぞれの声が違う楽器として音を奏で、共に音楽を作っていくことができます。

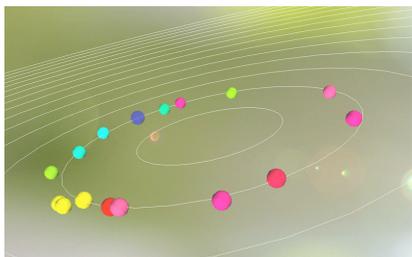
2007年 青山学院大学理工学部情報テクノロジー学科卒業

2007年- 東京大学大学院学際情報学府学際理数情報学コース 廣瀬研究室所属

情動によるコミュニケーションの円滑化に興味があり、新たなコミュニケーション手法の研究を進めようとしている。

SIGN Do Sound■稲田雅彦+安藤大地+丹治信

人工知能は、工学分野だけに止まらず応用され、芸術を創発する分野にまでその領域を拡大しつつある。本制作展では、コンピュータとヒトの対話を通じて創作活動を行える、3次元インタフェースおよび人工知能を用いた対話型進化的音楽制作システムを提示する。また、そのインタラクションをビジュアルとして提示することにより、音楽制作に新たな解釈を付加する。



稲田

2007年 神戸大学工学部電気電子工学科卒業

2007年- 東京大学大学院新領域創成科学研究科基盤情報学専攻 伊庭研究室所属

人工知能を用いた音楽情報処理に関する研究をテーマとしており、音楽情報処理に関する研究を行う傍らコンピュータ音楽などの創作活動も行っている。

安藤

東京大学大学院新領域創成科学研究科基盤情報学専攻 伊庭研究室所属

丹治

東京大学大学院新領域創成科学研究科基盤情報学専攻 伊庭研究室所属

アーバンロボット-URBOT-■門脇明日香



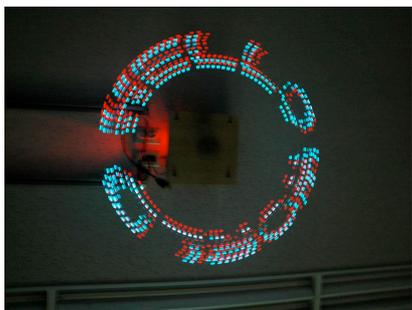
近づきすぎずぶつからず、しかし仲間のスピードや向きを察知し、群れの中心を意識する。そんな分権化し自己組織化されたシステムをもって都市という大きなハードウェアを迂回する小さなハードウェア群。各々が見た風景とは？

2007年 立命館大学理工学部ロボティクス学科卒業

2007年- 東京大学大学院学際情報学府学際理数情報学コース 稲葉研究室所属

Lisp・画像処理・行動計画・空間・アートなどをキーワードに、ロボットに関する研究をおこなっている。

3D-HFD ■ 軍司 怜



一般的に見られるディスプレイというものは平面的なものです。しかし、そこに柔らかい素材を用いることによって、様々な変化にとんだディスプレイで表示が行われます。様々な変化をするディスプレイで一風変わったメッセージなどを表示してみてください。

2006年 東海大学電子情報学部コンピュータ応用工学科卒業

2006年- 東京大学大学院学際情報学府学際理数情報学コース 鈴木高宏研究室所属
大学において制御に関して知識を習得し、モータの制御を用いた研究を行っている。現在は、ひもや布など柔らかいものを用いたアプリケーションについて研究している。

fluctuate orb ■ 小山 翔一



あらゆる物理現象は、決定論的なシステムを内部に含み、しばしば予測不可能な『ゆらぎ』をみせる。この自律性をもった複雑な『ゆらぎ』の構造をもつ自然現象は、しばしば人間にその美しさを感じさせる。この作品では、球体に触れることによって光と音の『ゆらぎ』を自発的に発生させ、その美しさを感じられることを目指した。

2007年 東京大学工学部計数工学科卒業

2007年- 東京大学大学院情報理工学系研究科システム情報学専攻 第3研究室所属
音に興味を持ち、現在センシングの側面から研究を行っている。大学での研究の傍ら、音を用いた表現を追及している。

"DRAW" YOUR DIARY. ■ 櫻井 翔

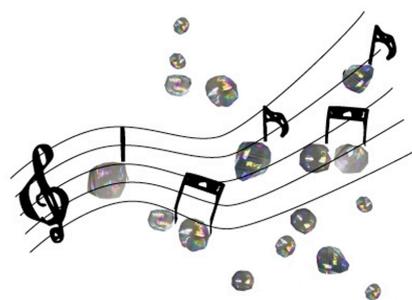


日記やブログを書いている人は少なくないと思います。後々まで実体験やその時の感情を残すことができる日記というものを、文章ではなくマンガで日記を表現したら、何が見えてくるか？ 日記をボックスの中に投函してみてください。文章がマンガへと変換されます。

2007年 群馬大学社会情報学部卒業

2007年- 東京大学大学院学際情報学府文化・人間情報学コース 佐々木研究室所属
自身がマンガを描いてきた経験から、マンガを利用したライフログの提示方法を研究テーマとしている。

風の音楽 ■ 鈴木 莉紗



オルゴールを手で回すとシャボン玉が飛びだし、弦にあたることによって音のでる作品。

風まかせに飛んでいるシャボン玉が織りなすメロディは、一回性をともなう、今ここの場にしかない音楽となる。

2006年 武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業

2007年- 東京大学大学院学際情報学府文化・人間情報学コース 荒川研究室所属
学部では建築を専攻し、インスタレーションを制作してきた。
修士課程からはシャボン玉を素材にメディアアート作品を展開させている。

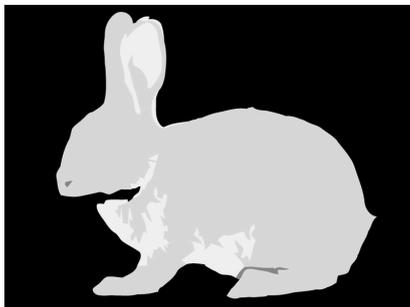


cafe nioi ■ 南部愛子

匂いと映像と実体の融合への試みです。匂いを楽しむカフェ、がコンセプトです。物質的には空のカップ。そこにコーヒーや紅茶が満たされてゆきます。隣の空のお皿にはアイスやケーキが浮かびます。甘いものに飽きた方はお食事どうぞ。見せます。匂わせます。

東京大学工学部機械情報工学科4年 廣瀬・谷川研究室所属
研究テーマはバーチャルリアリティ、特に嗅覚と視覚の融合を扱っている。

Beat Story ■ 野澤紘子



時計の上で過ぎていく時間は誰にでも平等に過ぎるものです。けれど、同じ1分間でも、早く帰りたい1分間と何かに夢中になっている1分間で、主観的な時間は伸び縮みします。心臓によって刻まれ伸び縮みする時間を視覚化した作品。

2007年 国際基督教大学教養学部理学科情報科学専攻卒業
2007年- 東京大学大学院学際情報学府文化・人間情報学コース 佐倉研究室所属
研究テーマは、VRやMRによる情報提示方法の応用。現在は時間という概念に興味を寄せている。

"So, this is Christmas" ■ 野村有加 + 遠藤謙



この季節、街はイルミネーションで彩られクリスマスの到来が近づいていることを告げます。その中でも一際目立つクリスマスツリー。人々はその前を通り過ぎ、遠くから眺めて楽しむでしょう。このクリスマスツリーはただ通りすがりに見て楽しむだけでなく、興味を持って近づいた人の顔を見つけ、その注目レベルに応じてさまざまな光り方で歓迎します。日本とアメリカの学生の遠隔地共同作業で実現した作品。

野村

2007年 お茶の水女子大学理学部情報科学科卒業
2007年- 東京大学大学院学際情報学府学際理数情報学コース 山口泰研究室所属
研究テーマは動画像における人間の顔表情の認識と理解。特に顔表情からの心理状態推定や感情の理解に興味を持つ。

遠藤

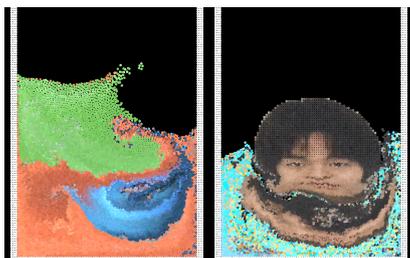
2005年- MIT Media lab Biomechanics group所属
研究テーマは人間の筋骨格系・脳神経系の理解。現在は、歩行運動の解析と大腿義足の開発に従事。

るつぼ ■ 平戸淳正 + 河口研究室

——注意。人間が予想もつかない変形をします——

コンピュータによって創造された仮想空間の中では、あなたは水にもなれるしゴムにもなれる。あなた自身の姿がありえない形状になり、ありえない挙動をとる。

時が流れて行くにつれ、訪れてきた人々の色彩が混じり堆積してゆく。その不思議な感触、快感を、どうぞお楽しみください。



2007年 東京大学工学部システム創成学科シミュレーションコース卒業
2007年- 東京大学大学院学際情報学府学際理数情報学コース 河口研究室所属
水棲動物の行動に興味を持ち、流体中での仮想的な生物進化モデルに関する研究を行っている。

日々の手ざわり ■ 深尾宙彦



ひんやりとしたコンクリートのかたまりに近づいたり触れたりすることで音が変わる作品

2007年 東京大学工学部建築学科卒業

2007年- 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 野口研究室所属

空間を包み、直接みたり触れたりしている要素としての建築表面に興味を持ち、あたらしい表面の特徴を持った建築材料の開発を研究テーマとしている。

回復の泉 ■ 堀紫



日常と異なる別空間の感覚を体験させるインスタレーション。

泉に足を踏み入れた鑑賞者の軌跡に花が咲きます。

ゲームのような異世界への没入を目指し、幻想的な光と水の空間を演出します。

2007年 早稲田大学人間科学部卒業

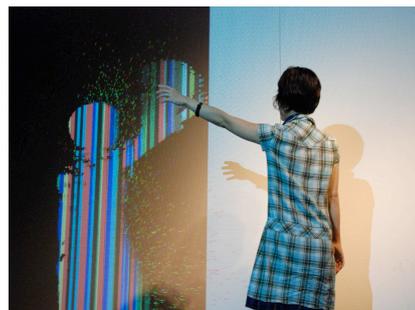
2007年- 東京大学大学院学際情報学府文化・人間情報学コース 馬場研究室所属

研究テーマはゲーム系コンテンツについて（心理的影響や教育利用等）特に、ゲームのもつ没入感、複合現実感に興味があります。

【授業としての制作展】

制作展"iii Exhibition"は東京大学大学院学際情報学府の授業の一環として、コンテンツ創造科学産学連携教育プログラムと共催で行われており、学生の研究成果を専門以外の一般の方に広く伝えることを目的としています。制作展自体は年2回、7月と12月に1週間ほどの会期で開催され、それぞれ前期と後期の授業時間を使って準備を進めます。

授業としては「学際理数情報学研究法Ⅲ」という名前で開講されており、制作展担当教員である荒川忠一教授とアーティストとしても活躍されている鈴木太郎先生のお二人から指導をいただいています。オフィシャルな授業時間は隔週火曜の夕方90分間ですが、授業時間後や授業日以外にも多くの時間を使って、学生主体で準備を進めています。



【運営メンバー】

担当教員：荒川忠一、鈴木太郎／ディレクション：野澤紘子、堀紫、鳴海拓志／広報：野村有加、岩渕正樹、稲田雅彦、平戸淳正、林向達／デザイン：鈴木莉紗／会場設計：伊野浩太、深尾宙彦、大蔵苑子、櫻井翔／ウェブ制作：石川貴彦、大目晃弘、小山翔一／記録：伊藤あをい、門脇明日香／設備：南部愛子、日比野陽、山口真由